



女性医師・研究者支援センター

Support Center for Women Health Care Professionals and Researchers

2016 Spring

Annual Report

アニュアルレポート



東京女子医科大学 女性医師・研究者支援センター

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

TEL:03-5269-7319(内線:8382) FAX:03-3353-6793

E-mail:w-support.bm@twmu.ac.jp <http://www.twmu.ac.jp/w-support/>



女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援し、子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立しつつ、キャリア形成を継続できる環境を整備します。

東京女子医科大学 男女共同参画推進局 局長

女性医師は近年増加し、平成12年以降の医師国家試験合格者では女性の割合が常に3割を超え、平成28年の合格者も32.8%でありました。医師全体での女性医師の割合は2割に達しておりますが、指導的地位に立つ女性医師(研究者・教員・管理職・医師会役員、学会役員、国・自治体委員等)は極めて少なく、女性医師、研究者のキャリアパスはいまだに未熟な状態です。

そのような現状を受けて、女性医師の特性にふさわしい医学教育-初期・後期臨床研修-生涯教育にわたる包括的かつ体系的な教育プログラムを構築し、指導的地位に立つ女性医師を育成することは極めて重要であります。

東京女子医科大学では平成18年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」を経て、平成21年に法人直轄の部門として、『男女共同参画推進局』を設立し、多くの事業を進めてまいりました。現在、局には「女性医師・研究者支援センター」、「女性医師再教育センター」、「看護職キャリア開発支援センター」に加え、平成27年度から「彌生塾」、「働き方の多様性を考える委員会」を設けております。これらプロジェクトの取り組みにより、最良の医療を実践する知識・技能を修め、高い人格を陶冶した医療者および医学・看護学研究者を育成し、将来の日本の医療に貢献することを目指しております。

女性医師・研究者支援センターは、女性医師の診療継続および女性医学研究者の研究活動を支援するため、子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立しつつ、キャリア形成を継続出来る環境を整備し、成果をあげております。文部科学省「周産期医療環境整備事業(人材養成環境整備)」による「男女共同参画型NICU人材養成プログラム-地域とささえあう周産期医療」補助金により設置された女子医大ファミリーサポート事業も順調に定着し、現在は東京医科大学と共同して運営し、活動の輪を広げております。

本学は、自立した女性医療専門職の育成という建学の精神のもと、男女共同参画推進の活動を行っております。平成27年に女性活躍推進法が制定され、さらなる成果が求められており、今後もより一層、活動を推進してまいります。皆様のご理解、ご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

東京女子医科大学 男女共同参画推進局 副局長 女性医師・研究者支援センター センター長

東京女子医科大学は、「高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出すること」を建学の精神としています。すなわち、指導的立場となる優れた女性医師・研究者の育成がその使命です。女性医師・研究者のキャリア形成において、1)子育て支援、2)勤務環境の改善、3)生涯教育・研究への支援が必要です。厳しい時期にも医療・医学研究を継続するという各人の意識改革にもつながるように、卒前教育としてキャリア教育を実施しています。そして、卒後教育としては、子育てと診療・研究の両立実施が可能な体制を構築してきております。様々な状況において困難に直面する女性医師への診療の継続や研究の遂行を可能とするシステムを形成してきました。

第1に挙げられる「子育て支援」では、保育支援による次世代育成として、院内保育、病児保育、ファミリーサポート事業などの支援を行っております。東京医科大学との連携による「女子医大・東京医大ファミリーサポート」は、地域(新宿区)と連携し、地域住民や周辺学校、NPOなどからサポーターを募り、多様なニーズに対応する支援体制です。本学学生の父母からの温かいご支援も大きな力です。サポーター対象の「子育て支援セミナー」を実施し、保護者の病気や急用時の子どもの預かり・保育所への送迎など、きめ細やかな支援が可能となっております。第2の「勤務環境の改善」では、短時間勤務制を診療現場に導入し、「宮原敏基金・女性臨床医師支援」により、女性臨床系教員のキャリア形成支援を行っております。さらに、「働き方の多様性を考える委員会」が結成され、勤務環境整備が検討されています。第3の「生涯教育・研究への支援」は、至誠会会員・教職員・父母による「女性医師研究者支援事業基金」、卒業生佐竹高子女士の寄付による「佐竹高子女性医学研究者奨励金」があります。これらの支援で、フレックス制短時間勤務特任助教としての研究を支援しています。

さらに、2015年からは「彌生塾」が始動し、女性リーダー育成に力を注ぎます。2020年までに本学卒業生を中心とした女性リーダーを30%とする行動計画を策定し、女性医療人のリーダーシップ育成を促進します。本学における女性医師・研究者の支援体制をさらに発展させ、指導的立場となる有能な人材を育成する体制の構築を目指して、男女共同参画推進局、女性医師・研究者支援センター、そして彌生塾が尽力しております。引き続き、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

これらの事業をご支援くださっている皆様、特に男女共同参画推進局、人事部、学務部、院内保育所、ファミリーサポートの皆様にご心から感謝申し上げます。



肥塚直美



東京女子医科大学 副局長
東京女子医科大学
附属遺伝子医療センター所長・教授
斎藤 加代子

ごあいさつ

Annual report 2016 spring

女性医師・研究者支援センター 副センター長

本センターでは、女性医師が仕事を継続するための保育支援や短時間勤務制度を他大学・他施設に先んじて導入し、若手医師が仕事と生活を両立しやすい環境を提供してまいりました。保育支援としては、夜間・休日をカバーし病児保育を備えた院内保育所や女子医大ファミリーサポートセンターがあり、短時間勤務制度は、男女を問わず、育児に限らず介護にも利用でき、医療練士研修生にも適応しています。また、一度離職した医師が復職するのを支援する女性医師再教育センターは、e-learningと復職プロジェクトを無料で提供するというサービスを配信しており全国的な女性医師の復職支援に貢献しています。

さらに、本センターは、真のGender Equalを目指し、女性が男性と対等にキャリア形成のチャンスを与えられ、身につけてきた技術や知識や蓄積した業績が正しく評価されて社会的地位が与えられ、多くの女性が社会で指導者として活躍することを目指しています。そのために、優れた女性研究者や臨床系指導者の育成としてテニュアトラック教職員支援を行い、医学生や若手医師に対するキャリア教育を実施しています。キャリア教育として、講演会、シンポジウム、ワークショップなどを行っており、テニュアトラック教職員支援として、ポジションの確保や研究費・給与等の経済的支援に加えて研究指導やメンタリングなども行っています。

このように、本学の女性医師・研究者支援センターは、仕事と育児を両立しながらキャリアを形成していくための女性医師支援を多角的に行い、多くの女性医師を支えてまいりました。これからも諸先輩方が築きあげた伝統を守りつつ時代のニーズに柔軟に対応して多くの優秀な女性医師を育成し、全国的な女性医師支援にも貢献していきたいと思っております。今後とも、皆さまの温かいご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

女性医師・研究者支援センター 副センター長

昨年女性活躍推進法が成立し、ますます女性の活躍が期待されています。しかしそのような中で、認可保育所や保育士の不足による待機児の増加が大きな社会問題となっております。本学でも同法を受けて行動計画を策定、公開し、具体的な数値目標の達成に向け新たな取り組みを開始しますが、医療従事者が意欲的に研究や仕事を行うためには、子育ても積極的に行える環境整備が必要です。

本学では以前より附属保育所やファミリーサポートの整備、認可保育園への入園申請、地域で提供されている子育て支援制度についての情報提供の他、様々な相談に対応し、支援を行っていますが、未だ十分な環境が整っているとは言えません。子どもを持つ研究者は子どものことを第一に考えながら、自分の研究をどのように展開できるかを常に様々な角度から検討しなければなりません。また、受け入れる側も、多様な状況の研究者たちがお互いに思いやりを持って研究が進められるよう、課題を一つずつ解決しなければなりません。研究者が充実した研究を継続できる職場環境づくりのために、女性医師・研究者支援センターは日々努力をしております。今後ともご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



総合研究所
准教授 竹宮 孝子



衛生学公衆衛生学(一)
講師 野原 理子

多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献することを目指して、平成21年4月に「女性医師・研究者支援センター」を設立いたしました。子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立し、キャリア形成を継続できる環境を整備します。



男女共同参画推進局

局長	肥塚 直美	理事会	理事
副局長	斎藤 加代子	遺伝子医療センター	教授

女性医師・研究者支援センター

センター長	斎藤 加代子	遺伝子医療センター	教授
副センター長	竹宮 孝子	総合研究所	准教授
副センター長	野原 理子	衛生学公衆衛生学(一)	講師

運営委員一覧

作業部会 女性医師支援関連	檜垣 祐子	女性生涯健康センター	教授
	村崎 かがり	医学教育学	特任准教授
	永田 智	小児科	教授・講座主任
	小川 哲也	東医療センター 内科	准教授
	新井田 達雄	八千代医療センター 消化器外科	教授
	片井 みゆき	東医療センター 性差医療部	准教授
作業部会 女性研究者支援関連	内田 啓子	学生健康管理センター	教授
	竹宮 孝子	総合研究所	准教授
	三谷 昌平	生理学(第二)	教授・講座主任
	岡田 みどり	化学	教授
作業部会 保育支援関連	宮田 麻理子	生理学(第一)	教授・講座主任
	野原 理子	衛生学公衆衛生学(一)	講師
	永田 智	小児科	教授・講座主任
	小川 哲也	東医療センター 内科	准教授
	奥津 康祐	医療・病院管理学	助教
	板坂 総一郎	人事部給与厚生課	課長

センターの事業

女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援する事業を行います。

- キャリア形成支援事業 …… 女性医師・研究者の育成支援
- 勤務体制検討事業 …… 勤務体制、勤務環境の検討と整備
- 保育支援事業 …… 院内保育所の充実、ファミリーサポートの運営支援
- 他大学との連携事業 …… 学内外の女性医師・研究者同士の情報交換の場の構成
- 社会への啓発事業 …… センターの広報

女性臨床系教員のためのテニユアトラック 宮原敏基金による「女性臨床医師支援」

故・宮原敏氏(本学昭和7年卒業)の遺贈により設立された基金をもとに女性臨床系教員が診療上の特殊技能取得などキャリア形成を図るために設けられた短時間勤務制度です。准講師以上あるいは卒後10年以上の東京女子医科大学の将来を担う優れた臨床実績を有するか、あるいは臨床能力・技能の優れた女性臨床系教員を対象に1年間の支援を行います。短時間での勤務を継続しながら、自身が定めた目標のための時間が確保できるため、充実した環境の中でさらなるキャリアと向き合い・取り組んでいける支援となっています。

優れた女性医学研究者への研究奨励 佐竹高子女性医学研究者研究奨励金による「女性医学研究者支援」

故・佐竹高子氏(本学昭和8年卒業)の遺贈により設立された基金から女性医学研究者研究奨励金として優れた女性医学研究者が研究と育児を両立できるよう設けられた短時間勤務制度です。必ずしも育児に限らず、介護等の事情も考慮されます。期間は1年ですが、女性医師研究者支援事業基金による「女性医学研究者支援」とあわせ、再応募により最大3年間の支援を受けることができます。出産・子育てといったライフイベントをむかえながら、医師としてのキャリアを継続できる支援です。

女性医師研究者支援事業基金による「女性医学研究者支援」

当センターの活動にご理解・ご賛同をくださった方々からのご寄付によって成り立っている基金であり、佐竹高子女性医学研究者研究奨励金と同様に優れた女性医学研究者が研究と育児を両立できるよう設けられた短時間勤務制度です。必ずしも育児に限らず、介護等の事情も考慮されます。期間は1年ですが、再応募により最大で3年間の支援を受けることができます。出産・子育てといったライフイベントをむかえながら、医師としてのキャリアを継続できる支援です。

「女性臨床医師支援」、及び「女性医学研究者支援」の対象者募集は、毎年10月頃を予定しています。ただし、支援開始時期を考慮し、条件、審査を満たした場合は支援期間の途中から開始する場合があります。支援ご希望の方は、事務局へご相談ください。

臨床系医師の短時間勤務制度 臨床系教員の短時間勤務制度

育児や介護等で通常の勤務が困難となった臨床系教員のための支援です。助教以上の臨床系教員で継続的な勤務が困難となった方や、小学6年生までの子の育児を必要とする方を対象としています。1回の申請で1年の取扱いとし、原則3年まで支援を受けることができます。男性医師も支援を受けることが可能です。

医療練士研修生の短時間勤務制度

医療練士研修生(大学院生を除く)の子育て支援です。小学6年生までの子の育児を必要とする方を対象としています。1回の申請で1年の取扱いとし、原則3年まで支援を受けることができます。男性医師も支援を受けることが可能です。

詳細は、女性医師・研究者支援センターのホームページに掲載しております。
<http://www.twmu.ac.jp/w-support/index.html>

活動報告

2015

- 4月24日 (金) ファミリーサポート運営検討会議
- 5月21日 (木) ファミリーサポート運営検討会議
- 5月23日 (土) 女性医師支援シンポジウム開催
- 6月27日 (土) 至誠父母会「女性医師研究者支援事業基金」案内
- 6月30日 (火) ファミリーサポート運営検討会議
- 7月14日 (火) ファミリーサポート運営検討会議
- 8月7日 (金) 女性医師・研究者支援 平成27年度支援者辞令交付
- 8月18日 (火) ファミリーサポート運営検討会議
- 9月7日 (月) 東京医科歯科大学来訪 ファミリーサポート室視察見学
- 9月16日 (水) ファミリーサポート運営検討会議
- 10月1日 (木) 女性医師・研究者支援 平成28年度支援者募集開始
- 10月26日 (月) ファミリーサポート運営検討会議
- 10月31日 (土) ファミリーサポート全体交流会
- 11月6日 (金) 第19回女性医師・研究者支援センター運営委員会
- 12月15日 (火) ファミリーサポート運営検討会議

2016

- 1月18日 (月) 女性医師・研究者支援 平成28年度支援者審査会開催
- 1月23日 (土) ファミリーサポート全体研修会
- 1月26日 (火) ファミリーサポート運営検討会議
- 1月29日 (金) 宮崎県医師会来訪 情報交換
- 2月19日 (金) ファミリーサポート運営検討会議
ファミリーサポートネットワーク会議(新宿区ファミリーサポートセンター)
ファミリーサポートスキルアップ研修会
- 3月18日 (金) ファミリーサポート運営検討会議
- 3月25日 (金) 大分大学来訪 情報交換



人間関係教育&チューリアル教育を駆使した
オリジナルキャリア教育ワークショップ

「あなたのエフォートどう使う?」を終えて (平成27年5月23日)

5月23日(土) 本学臨床講堂Ⅰにおいて、女性医師・研究者支援センター主催、総合研究所共催による女性医師支援シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは平成25年から医学部4年生の人間関係教育学のカリキュラムに組み込まれましたので、女子医学生のキャリア教育、研究マインドの向上も目指して毎年実施しています。シンポジウム前半は研究支援を受けた女性医師2名による研究成果の発表、後半は「あなたのエフォートどう使う?」と題し、各方面でご活躍されているコメンテーターを中心に、医学部学生や若手・中堅女性医師、男性医師など様々な立場の参加者を交えてのワークショップ(WS)が行われました。シンポジウムには総勢145名の皆さまにご参加を頂き、交流会にも33名の方が参加され、大変盛況のうちに終了することができました。ご参加頂きました皆さまに心から感謝申し上げます。

前半の支援を受けた2名の女性医師による研究成果発表では、神経精神科助教・菅原裕子氏(座長:石郷岡純 神経精神科学教授・講座主任)、循環器内科助教・西井明子氏(座長:村崎かがり 医学教育学/循環器内科特任准教授)が、これまでのキャリアや支援を受けるに至った背景などを織り交ぜ、ご自身の研究を報告されました。また、発表後には、今回支援を受けた女性医師をサポートした所属診療科の上司に斎藤加代子センター長から感謝状が贈呈されました。

後半のWS「あなたのエフォートどう使う?」(座長:竹宮孝子・総合研究所准教授)では、本学の特徴であるチューリアル教育と人間関係教育を盛り込んだプログラムに初挑戦しました。学生は課題シート(外科に進んだ後期研修医4年目の女性医師が妊娠をきっかけに仕事と家庭について考え始めるという設定)を基にチューリアルのグループごとに事前に問題点を討論した上でWSに参加しました。学生は意見を発表すると共に、他のグループ、コメンテーター、会場の参加者からのコメントやアドバイスも聞き、家族や職場の上司・同僚との間に信頼関係や支援体制を作ることが重要であると感じ、また、自分から積極的に職場や地域等の支援やロールモデルを見つけて相談したり自分自身の考えや気持ちに柔軟になったりすることで、Work Life Balance(WLB)を維持しながらキャリアも継続できるということを学びました。

学生からは「具体的なビジョンが得られ自分の将来を考える上で参考になった、現実に仕事と家庭を両立しているロールモデルの先生方の話はとても参考になった」、「研究への興味がわいた、出産・育児の期間も研究に取り組めることがわかった、この時期に研究に専念することは家庭においてもキャリアにおいても良いかもしれない」といった感想が寄せられ、本シンポジウムがWLBの意識向上やキャリア形成意欲・研究マインドの向上に役立ったことがわかりました。本経験を生かし、さらに効果的なシンポジウムを目指して頑張りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

業績一覧

センター運営委員

論文発表

著者名	タイトル	誌名
野原理子	働く女性に必要な健康管理のあり方	産業精神保健,23,108-113,2015
野原理子	女性のライフサイクルに沿った就業する女性への健康支援とは?	産業保健と看護,7(5),360-366,2015
野原理子	働く女性に優しい健康支援事例	産業保健と看護,7(5),386-387,2015
Mariko Miyata	Changing times, Changing gender roles: Who do we want female researcher to be.	Acta Anatomica Nipponica 90:27-28 (2015)
野原理子	東京女子医大における男女共同参画 女性医師・研究者支援センターの取り組み	女性心身医学,20(3),280-284,2016

学会発表

演者	形式	区分	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
竹宮孝子	シンポジウム	口演	第118回 日本小児科学会学術集会	総合シンポジウム6「男女共同参画-多様な取り組み-」女性医師のための新しい支援ネットワークの試み	大阪	2015.4.18
江畑智恵、辰田仁美、野原理子	一般講演	ポスター	第88回日本産業衛生学会	独立行政法人労働者健康福祉機構 労災疾病等医学研究・開発、普及事業に係る研究『就労支援と性差』勤務条件・職種が女性の健康に及ぼす影響に関する調査研究—第一報—	大阪	2015.5.15
辰田仁美、江畑智恵、野原理子	一般講演	ポスター	第88回日本産業衛生学会	独立行政法人労働者健康福祉機構 労災疾病等医学研究・開発、普及事業に係る研究『就労支援と性差』勤務条件・職種が女性の健康に及ぼす影響に関する調査研究—第二報—	大阪	2015.5.15
斎藤加代子	一般講演	口演	女性医師支援シンポジウム	人間関係教育&チュートリアル教育を駆使したオリジナルキャリア教育ワークショップ「あなたのエフォートどう使う？」	東京	2015.5.23
野原理子	ワークショップ	口演	第44回日本女性心身医学会学術集会	男女共同参画の光と影	東京	2015.7.26
野原理子	シンポジウム	口演	日本健康心理学会第28回大会	就労女性のウェルビーイングの課題	神奈川	2015.9.6
辰田仁美、江畑智恵、野原理子	一般講演	ポスター	第63回日本職業・災害学会学術大会	就労支援と性差—質問紙と加速度脈波を用いたストレス測定を試み—	東京	2015.11.22
竹宮孝子	シンポジウム	口演	第166回日本体力医学会関東地方会	女性の活躍を支える多様なサポートのあり方	東京	2016.3.27
岡田みどり、中村裕子、岡谷理恵子、佐藤梓、齋藤加代子、大野尚仁、井上みち子、深見希代子、渡邊弘美	一般講演	ポスター	日本薬学会第136年会	女子中高生の理系進路選択支援プログラムにおいて大学生が中高生に教える屋根瓦式教育の効果	横浜	2016.3.27

その他

氏名	機関	名称
斎藤加代子	日本私立医科大学協会 広報誌医学振興	座談会「女性医師キャリア支援について」東京,2015.4.9
斎藤加代子	東京女子医科大学JST女子中高生の理系進路選択支援プログラム第一回	「親子で聴こう 女性が活躍できるのちと医療を支える学部ってどんなところ」講演、東京、2015.6.13
野原理子	宮崎県医師会	医療現場のワークライフバランスセミナー、講演、宮崎,2015.7.2
楢垣祐子	広島県医師会	平成27年度広島県医師会女性医師部会総会「東京女子医大における女性医師支援の取り組みについて」講演、広島、2016.2.20

支援を受けた女性研究者

論文発表

著者名	タイトル	誌名
近本裕子、服部元史	巣状分節性糸球体硬化症(FSGS)の腎移植—血漿交換療法(PE)と薬物治療とのコンビネーション—	日本アフェリシス学会雑誌34巻1号、48—52、2015
小暮朝子	レーザースペックルフローグラフィ—(LSFG)	眼科 57:399-408, 2015 臨時増刊号
小暮朝子	Laser speckle flowgraphy	臨床眼科 69:1764-1773, 2015

学会発表

演者	形式	区分	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
佐藤明子、菅原裕子、長縄瑛子、石郷岡純		ポスター	第111回日本神経学会学術総会	精神病症状を呈したFahr病の一例	大阪	2015.6.4-6
堤多可弘、菅原裕子、伊藤遼子、浅野瑞穂、石郷岡純		ポスター	第111回日本神経学会学術総会	ミルタザピン単剤療法の有効性ならびにイライラ/不安症候群の発現頻度に関する後方的研究	大阪	2015.6.4-6
新田恵理、小暮朝子、丸子一朗、田村明子、新井歌奈江、飯田知弘	一般講演	口演	第74回東京女子医大眼科臨床談話会	短眼軸眼の黄斑部網膜血流動態の検討	東京	2015.6.20
島本啓輔、村尾朋彦、菅原裕子、押淵英弘、石郷岡純	一般講演	口演	第104回東京精神医学会	高齢初発のうつ病が疑われ、加療中にせん妄が顕在化した1例	東京	2015.7.4
西井 清雅、関 明子、David L. Paul、萩原 誠久、小林 靖		ポスター	第38回日本神経科学大会	網膜電気シナプスは内顆粒層においてNFATc3を活性化させる	神戸	2015.7.28
Akiko Seki, Nobuhisa Hagiwara.		ポスター	第30回日本不整脈学会学術大会・第32回日本神経学会学術集会	Impact of connexin45 knockout on the cardiac conduction system in different age adult mice.	京都	2015.7.29
Akiko Kogure	シンポジウム (パネリスト)	口演	The 9th Asia-Pacific vitreoretinal society	Laser Speckle Flowgraphy	シドニー	2015.7.31-8.2
菅原裕子、岩本和也	シンポジウム	口演	第45回日本神経精神薬理学会・第37回日本生物学的精神医学会	精神疾患の診断におけるエビデンスエイクバイオマーカーの有効性の検討	東京	2015.9.24-9.26
小暮朝子	特別講演		Retina Research Club	Laser Speckle Flowgraphy	東京	2015.10.4
Akiko Kogure		口演	第3回 Fluorescein Conference	Mystery case of CSC	名古屋	2015.10.23
新田恵理、小暮朝子、丸子一朗、河野泰三、小暮俊介、三上祐利子、田村明子、飯田知弘	一般講演	口演	第69回日本眼科臨床学会	眼軸長が及ぼす網膜血流動態への影響	名古屋	2015.10.22-25
三上祐利子、小暮朝子、古泉英貴、丸子一朗、新田恵理、河野泰三、小暮俊介、田村明子、飯田知弘	一般講演	口演	第69回日本眼科臨床学会	黄斑部網膜の管腔密度と血流動態	名古屋	2015.10.22-25
小暮俊介、小暮朝子、丸子一朗、安積祐美、三宮唯、出雲令子、花田真毅、飯田知弘	一般講演	口演	第69回日本眼科臨床学会	1%プリンゾラム懸濁性点眼液の眼底血流解析	名古屋	2015.10.22-25
木村真智子、小暮朝子、丸子一朗、森優、出雲令子、飯田知弘	一般講演	ポスター	第69回日本眼科臨床学会	レーザースペックルフローグラフィ—が有用であった網膜動脈分枝閉塞症の1例	名古屋	2015.10.22-25
小暮朝子	特別講演		第4回城北眼科フォーラム	レーザースペックルフローグラフィ—を用いた脈絡膜循環障害の診断	東京	2015.10.31
Akiko Seki, Taisuke Ishikawa, Xavier Daumy, Mari Urano, Kayoko Saito, Kiyomasa Nishii, Yosaburo Shibata, Yasushi Kobayashi, Jean-Jacques Schott, Richard Redon, Vincent Probst, Nobuhisa Hagiwara, Naomasa Makita		一般講演	口演	A novel connexin 45 mutation responsible for cardiac conduction disturbance demonstrated by next generation sequencing and recapitulated by conditional knockout mice	仙台	2016.3.18

その他

氏名	機関	名称
菅原裕子・文東美紀・石郷岡純・加藤忠史・岩本和也	医学書院	生体の科学 Vol.65 No.6 特集:エビデンスの今
小暮朝子	バイエル薬品株式会社	RVO Discussion Forum、パネラー
菅原裕子・文東美紀・石郷岡純・加藤忠史・岩本和也	医学書院	生体の科学 Vol.65 No.6 特集:エビデンスの今
菅原裕子・坂元薫	科学評論社	「精神科」第27巻第2号 特集I 精神疾患の長期的転帰の改善を目指して 双極性障害の早期治療介入は長期的転帰を改善するか
小暮朝子	女子医大眼科学教室	眼科オープンフォーラム「みんなの眼科手術」
菅原裕子・坂元薫	星和書店	精神科治療における処方ガイドブック 4.抑うつ障害群 5)うつ病(混合性の特徴を伴う)
菅原裕子・坂元薫	先端医学者	『エストロラムのすべて』 5.非定型うつ病の考え方と治療とSSRIの位置づけ
菅原裕子・坂元薫	医学書院	今日の精神疾患治療指針 第2版 抑うつ気分
菅原裕子・坂元薫	医学書院	今日の精神疾患治療指針 第2版 多幸
菅原裕子・坂元薫	医学書院	今日の精神疾患治療指針 第2版 意欲低下(制止)
菅原裕子・坂元薫	医学書院	今日の精神疾患治療指針 第2版 食欲減退・亢進
菅原裕子・坂元薫	医学書院	今日の精神疾患治療指針 第2版 双極スペクトラム
菅原裕子・西村勝治	医学書院	今日の精神疾患治療指針 第2版 腎不全・人工透析に伴う精神症状
小暮朝子	診断と治療社	病診連携 新時代! 眼科開業医のための診療・連携ポイント 11 網膜静脈分枝閉塞症

支援を受けた女性医師の紹介

【短時間勤務支援】 眼科 小暮 朗子 Akiko Kogure



平成27年度の支援者は1名。

医師でありながら、母となったことをきっかけに
仕事と子育ての両立を前向きに捉え、支援を受けながら
医師としてのキャリアを継続することを選択されました。

小暮先生のさまざまなチャレンジが多くの方々の心に響き、
励ましとなることを期待しています。

profile 小暮 朗子

学歴

1996年 3月30日 群馬大学医学部医学科卒業

職歴

1996年5月 1日 群馬大学医学部附属病院 眼科研修医

1998年6月 1日 上尾中央総合病院 眼科医員

1999年5月 1日 群馬大学医学部附属病院 眼科医員

2002年2月 1日 聖路加国際病院 眼科医員

群馬大学大学院医学系研究科 視覚病態学研究生

2007年12月14日 ロンドン大学眼科 Division of Molecular Therapy

および Moorfields Eye Hospital (Honorary Research Associate)

2009年3月 群馬大学博士号取得

2009年6月 1日 東京女子医科大学 眼科 助教

2010年11月 1日 東京女子医科大学 眼科 准講師

2015年5月 1日 東京女子医科大学女性医師・研究者支援センター 兼務

専門領域

網膜硝子体手術

眼循環研究



私は、群馬大学眼科学教室で眼科医としての学問をスタートさせました。同教室は、網膜硝子体の分野の世界最先端の研究、治療が行われており、私自身も網膜硝子体分野での学びに没頭する日々でした。そこで、尊敬する様々の先輩医師の方々に教を頂きましたが、その当時開発されたばかりの眼底血流機器である、レーザースペックルフローグラフィ（LSFG）の存在を知り、非常に興味を持ちました。眼球というのは、わずか直径2.4mmの球体であるにも関わらず、組織あたりに必要とする血流量は体中で最も多く、「眼循環」という学問がとても重要だと感じました。数年後、英国留学を経て当大学に入局した折にも、LSFGを導入して頂き、「眼循環外来」を立ち上げました。この度、女性医師・研究者支援センターにて「宮原基金」でのご支援を頂き、専門とする眼循環障害の中で、網膜静脈分枝閉塞症（BRVO）について研究をさせて頂きました。同疾患は本邦の罹患率が、2.0%と比較的日常生活でも出会う頻度が多い疾患です。BRVOは、ほとんどの症例で黄斑浮腫が伴いこれが、視力低下の原因となります。黄斑浮腫に対する治療として、抗VEGF薬硝子体内注射が承認され、その高い有効性が認められていますが、注射スケジュールなどの点において施設ごと様々な治療方法が取られており、高額で頻回な治療は患者様にとって大きな負担となっていました。そこで、独自に考案した注射スケジュールにおける有効性を検討しました。前向き研究を始めますと、BRVOの症例自体はあるものの、他院での既治療歴があったりなど、取り込み基準に合致しない症例も多く、目標症例数に至らずに支援期間が経過してしまいましたが、今後も引き続き研究を継続し成果を出して参りたいと思っております。



メッセージ

私は、研修医時代より、心より尊敬できる素晴らしい指導者に恵まれてきました。その先生方の背中を必死で追いかけている内に、自分自身も後輩を指導できる立場に育てて頂きました。今でも、若い先生方が学会発表などの初めての経験をサポートする事をとても幸福に感じています。これからも、若い先生方と共に、向学心を持ち、臨床家として成長し続けられるよう教室に貢献したいと思っております。

今後の目標・夢

育児に関して、夫や両親のサポートを受け、恵まれた環境ではありましたが、幼い子供にとって「母親」は、特にかげいの無い存在です。支援を頂きながら臨床家を継続させ、かつ、子供へ視線を注ぐ時間を頂戴出来ました事を大変感謝しております。今後若い先生方も、育児をしながらも、積み重ねたキャリアを大切にしたり、様々な先輩から御指導頂いたスキルを維持したり出来るという事を知って頂きたいと思っております。





女子医大ファミリーサポート

女子医大ファミリーサポートとは、東京女子医科大学の在籍者が仕事と家庭を両立するための一環として、地域の人々から子育て支援を受け、家族の福祉の向上を図ることを目的とした、会員相互の援助活動です。また地域に対して医学的な知識・技術の提供を通して、地域全体の保育能力の向上を図り、地域と医療従事者との協力体制を構築することも目的としています。

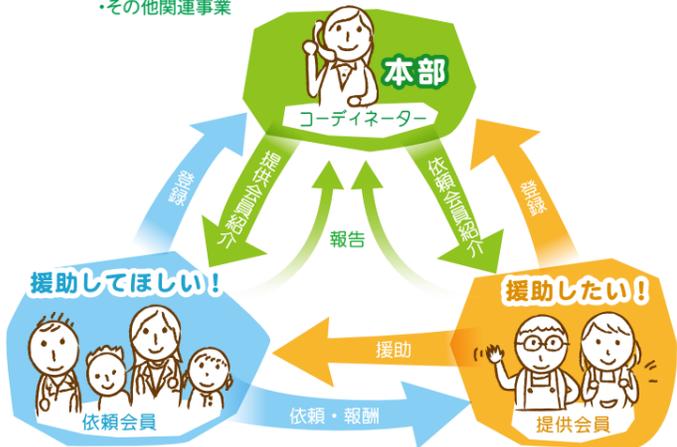
2014年度からは、東京医科大学の在籍者も依頼会員の登録が可能となり、「東京医大女性研究者支援事業女子医大ファミリーサポート連携プログラム」として本事業が行われました。

2016年度から「女子医大・東京医大ファミリーサポート」として事業が継続されます。



女子医大ファミリーサポート

- ・提供会員養成プログラム(講習会)の企画・運営
- ・会員募集・広報
- ・会員登録・保健加入事務
- ・依頼会員と提供会員のマッチング
- ・その他関連事業



依頼会員 **207名** ※2016年3月31日現在

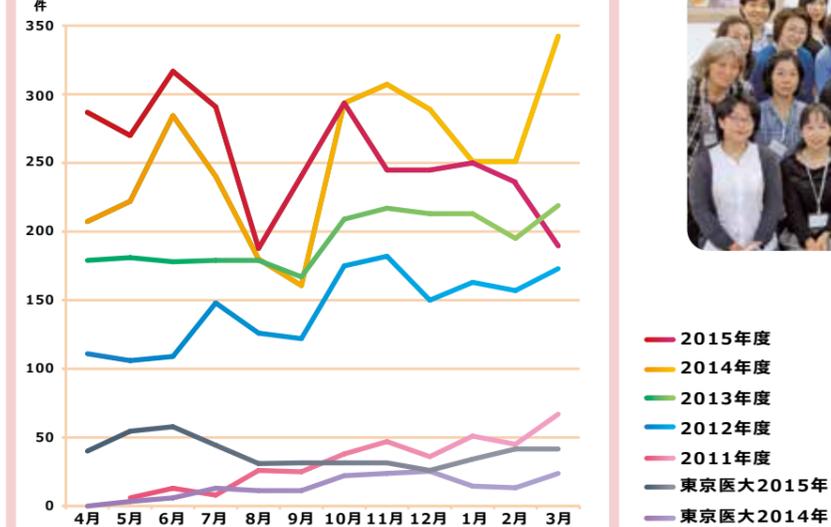
提供会員 **189名**
学生サポーター **4名**

	一時預かり保育	病(後)児保育	お泊り保育
場所	依頼会員の自宅 提供会員の自宅	依頼会員の自宅	提供会員の自宅
対象	生後おおむね 2ヶ月～15歳	1歳～6年生	1年生～6年生
時間	7:00～22:00	8:30～18:00 土日祝日はなし	19:00～7:00
料金	1時間800円 19:00以降900円 (兄弟の2人目 以降は半額)	1時間 1,000円	1泊18,000円 (兄弟の2人目 以降は半額)

活動実績

保育サービス講習会	提供会員になるための基本講習。全30時間を受講し修了証を受けた者が提供会員となる【6月、11～12月】 全30時間：開校式、保育の心、子どもの心の発達と保育者のかかわり、子どものあそび、事故と安全、身体の発達と病気、障害のある子の預かりについて、普通救命講習、子どもの暮らしとケア、子どもの栄養と食生活、小児看護の基礎知識、保育サービスを提供するために、修了式
スキルアップ研修会	提供会員の継続的なスキルアップを図る【9月、2月】 ヒヤリハット事例の検討、ワークショップ
全体交流会	提供会員と依頼会員および登録希望者の交流を図るイベント【10月】 女子医大祭のイベントのひとつとして開催(提供会員さんによる手作りスライム、カラフルこま、折り紙など)
全体研修会	会員をはじめとする地域の方々のための育児支援についての研修会<一般公開講座>【1月】 『受容と共感のコミュニケーション——良好な関係を形成するために』 講師：相原真人氏(静岡福祉大学社会福祉学部教授)
その他	ファミリーサポート通信14～16号発行【5月、10月、3月】 自治体、大学、大学病院、メディアからの取材、シンポジウム、講演会等での発表

活動件数



活動内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保育園・幼稚園の登園前の預かりと送り	20	18	22	22	22	22	22	23	22	18	11		222
保育園・幼稚園の送り	42	35	49	33	22	31	51	37	34	30	36	24	424
保育園・幼稚園の迎え	45	41	40	25	23	22	28	22	35	32	24	15	352
保育園・幼稚園の迎えと帰宅後の預かり	43	40	52	64	26	40	56	46	46	47	34	29	523
保育園等の入所前の預かり	19	21	33	40	25	27	38	28	33	34	25	25	348
登校前の預かりと送り	29	19	30	23	8								109
学校の送り													0
学校の迎え	3	1		1		7	6	6					24
下校後の預かり	4	12	3	7	4	9	4	11	4	10	13	13	94
学校から学童保育への送り	1	3											4
学童保育の迎え	7	2	4	6	6	11	11	7	6	9	12	11	92
学童保育から帰宅後の預かり	1		1				1						3
保育園・幼稚園・学校等のお休みの預かり	9	8	11	10	10	7	19	4	12	19	10	6	125
子どもの習い事・塾等の送迎	32	43	49	43	30	36	42	45	33	34	39	47	473
保護者の臨時的就労の場合の預かり	5	7	5	4	2	2	2	3	1	7	15	15	68
保護者の学会・研修会参加時の預かり	2		1	2	2	6			1	4			18
保護者の外出時(冠婚葬祭・リフレッシュ等)の預かり	2	2	1		1	5		1	9	1	1	2	25
他の子どもの学校行事・通院時の預かり	2	6	7	5	2	9	8	9	4	6	6	4	68
保護者の病気時の預かり(出産前後等も含む)	1								1				2
病児・病後児保育	2	1		2			1		1		3		10
その他	16	8	8	4	5	3	2	4	3	1	1	1	56
合計	285	267	316	291	188	237	291	246	245	252	230	192	3040

保育支援事業

院内保育所とファミリーサポート室が連携し、充実した保育体制を整備しています。



院内保育所

	昼間保育	延長保育	夜間保育	休日保育	病児保育
対象	2ヶ月～就学前の待機児				原則、3ヶ月～就学前
時間	7:30-18:30	18:30-20:00	20:00-7:30	7:30-18:30	8:00-18:00
料金 (1時間)	200円 2年目以降300円	300円 2年目以降350円	400円	300円 2年目以降350円	500円



年間行事

- 5月 誕生日会、避難訓練
- 6月 誕生日会、避難訓練
- 7月 誕生日会、避難訓練、たなばた
- 8月 プール遊び
- 9月 誕生日会、避難訓練、秋のミニ遠足
- 10月 避難訓練、バザー、ハロウィン
- 11月 誕生日会、避難訓練
- 12月 誕生日会、避難訓練、クリスマス会
- 1月 誕生日会、避難訓練
- 2月 誕生日会、避難訓練、節分
- 3月 誕生日会、避難訓練、ひなまつり

研修

- 6月 知っておきたい子どものBLS:参加者9名
- 7月 第24回病児保育全国大会(熊本県):参加者3名
認可外保育施設職員テーマ別研修会:参加者5名
- 8月 認可外保育施設職員テーマ別研修会:参加者3名
- 11月 大学合同防災訓練:参加者3名
認可外保育施設職員テーマ研修会:参加者4名
- 12月 認可外保育施設職員テーマ研修会:参加者4名

その他

- 保育所だより発行(毎月)

2015年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
昼間保育	198	179	189	221	250	302	375	335	346	323	340	399
延長保育	35	39	38	48	45	57	80	79	76	63	69	85
夜間保育	40	51	55	52	48	45	63	50	49	46	34	41
休日保育	8	13	11	7	12	22	20	27	16	17	12	13
病児保育	19	12	33	30	24	21	23	21	21	21	19	18

女性医師研究者支援事業基金

Support Center for Women Health Care Professionals and Researchers

女性医師研究者支援事業基金につきまして、多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。これからの社会において多くの女性医療者たちが活躍できるよう、深いご理解とご関心をお寄せくださる皆様から賜りましたご芳志に深謝するとともに重ねて心からお礼申し上げます。多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献するために役立てて参ります。今後とも何卒ご支援とご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

○ ご寄付合計金額 **54,770,000円** (2016年3月末現在)

○ ご芳名一覧(五十音順) 2015年4月から2016年3月末まで

- 須山 豪通 様
 - 竹内 廣 様
 - 医療法人社団 新美クリニック 様
 - 渡邊 一雄 様
 - 渡辺 邦夫 様
 - 吉田 洋子 様
- 匿名4名

○ 募集要項

- 目的・・・女性医師研究者支援事業のための経費
- 目標額・・・3億円
- 対象・・・法人:1口の金額を特に定めておりません
個人:1口2万円(多数のご支援をいただけますと幸いです)

*申込方法、振込方法、免税措置(企業等法人、個人)など、寄付に関する詳細につきましては、下記までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

東京女子医科大学 女性医師・研究者支援センター

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
TEL:03-5269-7319(内線:8382) FAX:03-3353-6793
E-mail:w-support.bm@twmu.ac.jp http://www.twmu.ac.jp/w-support/